

第1回舞鶴市医療機能最適化検討会議（概要版）

1. 開催概要

日時：令和6年6月4日（火）19:30～21:45
 場所：舞鶴市役所 大会議室

- 【参加メンバー：8名】
- | | | |
|-------------------|-----|-------|
| 舞鶴医師会 | 会長 | 隅山 充樹 |
| 舞鶴医療センター | 院長 | 法里 高 |
| 舞鶴共済病院 | 病院長 | 沖原 宏治 |
| 舞鶴赤十字病院 | 院長 | 片山 義敬 |
| 舞鶴市民病院 | 病院長 | 重見 研司 |
| 京都府立医科大学 | | |
| 医療センター所長兼北部キャンパス長 | | 加藤 則人 |
| 舞鶴市長 | | 鴨田 秋津 |
| 舞鶴市地域医療政策アドバイザー | | 井上 重洋 |



（事務局：舞鶴市地域医療課）

【第1回会議の概要】
 会議の目的、進め方、スケジュール等を確認するとともに、オープンデータに基づく現在の舞鶴市における供給体制や、今後の医療需要の傾向を共有した。今後は、より病院現場の実態に即した状況把握を行うため、各病院の診療情報等を踏まえて詳細分析を行うことを確認した。
 その後、今後の医療提供体制の方向性について、現時点におけるメンバーの考えを述べていただいた。

会議の目的、進め方など

- 趣旨**
 令和5年度に行った「持続可能な地域医療を考える会」や「地域医療シンポジウム」を踏まえ、各種データ等を用いながら、将来、舞鶴市に求められる医療機能を共有し、どのように確保していくのか、複数の選択肢を挙げて検討するため、「舞鶴市医療機能最適化検討会議」を開催する。
- 会議の進め方**
 病院の診療情報や経営情報を取り扱うこと、中長期的視点に基づき実施すべき手順（各論）にも及ぶこと、これらを本音で議論するため、会議は原則非公開とする。会議資料の公表範囲は適宜相談しながら対応する。会議概要は概ね1か月後に公表し、適宜市民に意見を求める。

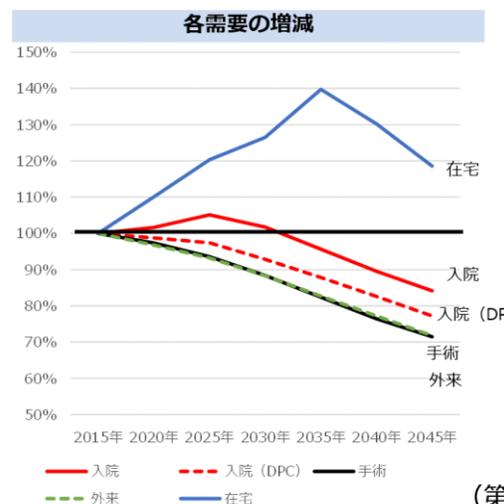
- 開催スケジュール（予定）**
 - 第1回 趣旨説明、データ分析項目の確認 等
 - 第2回（8月頃） データ分析結果の共有、舞鶴市の医療提供体制の課題整理
 - 第3回（10月頃） 定性情報も踏まえた舞鶴市の医療提供体制の課題整理
舞鶴市の医療提供体制の方向性（初期段階の複数案）
 - 第4回（11月頃） 舞鶴市の医療提供体制の方向性（複数）
 - 第5回（2月頃） 最終とりまとめ

※12月又は1月頃には、地域医療シンポジウムを開催し、検討内容等を説明する予定

2. オープンデータの共有 ※令和4年病床機能報告から

- 令和4年病床機能報告に基づく需要と供給体制の概要**
 - 供給体制（4病院合計）
 - ・病床稼働率は65.9%（稼働病床ベース）、57.4%（許可病床ベース ※休床含む）
 - ・手術件数3,958件（3病院）
 - 需要推計について
 - ・2045年の本市人口は5万人台に達する。
 - ・後期高齢者人口（75歳以上）は2025年にピークを迎え、以降は減少する。
 - ・手術需要はすでに減少傾向にある
 - ・一般的に高齢者は通院困難となるため、外来需要は縮小して在宅需要が増加する。
 - ・全体的に医療需要は縮小する。うち在宅系の需要は2035年がピークとなる見通し

→急性期医療の需要の縮小が見込まれるため、それに応じた供給体制の検討が必要



（第1回会議資料から）

- 今後のデータ分析について**
 オープンデータ分析で大枠の整理はできるものの、個別具体的な分析の面では限界があるため、あるべき医療提供体制を考えるうえでは詳細なデータの分析が必要となる。
 分析項目としては下記を想定。この分析により、将来需要や現有の医療資源の状況、各病院の医療機能や実績を踏まえた持続可能な医療提供体制の検討を行う。
 - ・DPCデータ分析：診療情報データを用いた各病院の対応実績の分析
（今後の傾向把握に向け、地域でどの診療科がどのくらい求められているのか）
 - ・その他データ分析：院内データを用いた各病院の現状把握、地域完結の把握等
（各病院の経営状況や救急搬送の実態、市内外における診療科毎の患者流出入状況など）

- 今後のデータ分析に係るメンバーからの意見・要望等**
 - ・地域で必要とされる医療（広域連携も含めて）
 - ・高齢患者に関する合併症の傾向と必要とする医療の明確化
 - ・20年後の各職種（医師、コメディカル）の推計人口の可視化
 - ・指導医、専門医の取得に必要な症例数
 - ・医師が働きたいと思える病院等の各論点に関する医師ヒアリングの実施
 - ・急性期3病院における手術対応のキャパシティ
 - ・将来的な自然災害も想定した各病院の建物健全度 など

→各病院本部からは、診療・経営情報を提供いただくことに基本的には理解いただいているが、情報の公開範囲については調整が必要

第1回舞鶴市医療機能最適化検討会議（概要版）

3. 今後の医療提供体制の方向性に関する各メンバーの発言（要旨抜粋）

第2回会議以降は、各種データ分析等を通じて客観的事実に基づく情報（定量情報）を整理するとともに、関係者へのヒアリングを通じて、データだけでは表れにくい実態（定性情報）も確認しながら、今後の医療提供体制として想定される複数のパターンを挙げ、人員配置を含めた医療機能の確保、採算性、施設や設備面で求められる投資の規模など、各種論点整理を行う予定。現時点における各委員の考えとして寄せられた主な意見は以下のとおり。



（今後の検討にあたって）

- 2045年には生産年齢人口が全体人口の5割を下回ると予想され、人員確保もさらに課題になることが見込まれる中で、将来の医療機能として本当に何が必要とされるのかをよく見極める必要がある。重複診療科の集約など、効率的に医療を提供できる体制を検討すべき。
- 現状の医療資源（人・施設）や医療機能（急性期、回復期、慢性期）を持続可能な形としてどのように残していくのかが論点となる。
- 広域的な視点も含めて、市民にとって最適な医療環境を考えることが必要。
- 市民の医療を守るためには何が必要であるかを重視すべき。仮に規模が縮小するとしても医療のクオリティは維持すべき。今回のような医療提供体制の話は市民合意が必要。
- 議論にあたっては、まず何を最も重視するかの信念（ポリシー）が重要。市民ファーストであるべきと考える。
- 結果的には方針転換したが、10数年前にも同様の議論を行い、東にはコアとなる急性期病院、西にはサテライト病院という案を示した経過があった。この案から議論するべきではないだろうか。
- 今回の検討については、病院の本部とも共有し、この地域を今後も支えてもらえるようにすべき。
- 今後はスピード感を持ちながらも、多岐にわたる関係者の立場や利害に配慮しながら最適解を見出していくべき。
- 今ある人材・資材を最大限に活かすことが重要。新規の建築物は大きな財源を必要とすることから、可能な限り避ける方が望ましいと考える。

（医療提供体制について）

- 今後の医療需要が減少していくことを考えると、1つのコアとなる病院が舞鶴市には必要と考える。
- 4病院が今のまま持続することは難しいため、再編・統合も含めた検討が必要。市民も1つの場所でしっかり診てほしいというのが総意ではないだろうか。
- 近年、それぞれの公的病院で増新築された経過を踏まえると、短期的にハードは動かしていくのではないかと。4病院で役割を分担しながら、いずれ1つの建物を目指す手順を想定することも必要。
- 例えば1病院に急性期機能を集約し、他の3病院は他の機能を分担するとした場合、急性期以外の3病院は経営が悪化してしまう可能性が出てくるため、経営母体が一体化していることが望ましい。
- 急性期から回復期、慢性期、在宅まで地域完結できる医療が舞鶴市には必要。そのためには高度急性期など一定の機能の集約は必要となる。
- 成人のための病院（高度急性期・急性期）と母子のための病院（周産期）、回復期以降を担う病院という役割分担が望ましいのではないかと。
- 急性期病院での外来と回復期病院での外来など、東西の市街地に外来機能は必要と考える。

（医療環境として求められる視点）

- 医師にとって他病院への転職は一般的になりつつあるため、医師にとって魅力的で働きたいと思える病院が必要。
- スマートホスピタルのような先進的なテーマを学べる環境があることは若手医師にとって魅力になる。
- 医師に魅力を感じてもらいたい意味でも、京都府立医科大学とのネットワークを構築して舞鶴市内で研究を行うのはどうか。
- 今後舞鶴市だけの医師数が増えることは現実的ではない。適切な医療機能に応じた人員配置が必要。
- 高校生の多くが卒業後に市外転出し、その後戻ってくる割合が低い。舞鶴市に戻ってきてもらえるよう、魅力あるまちづくりが必要。

（その他）

- 開業医から病院への転送にあたり、救急搬送でなければ病院で診てもらえないケースがある。病院と開業医の連携が重要なポイントとなる。各地域連携室の役割も重要。
- 救急搬送のたらい回しについては課題である。急性期から回復期・慢性期等への転送システムも重要。
- 看取りを含めた在宅医療については複数名の医師を要することもあり、対応できる診療所は少なく、最終的には救急搬送となるケースも多い。
- 看取りの点については、病院に入院してもらっての対応の方が、患者にとっても良く、開業医の負担も減る可能性がある。
- 病院としても開業医と連携して看取りをやるというのが良いと感じる。

